

## 〔理論編〕

子どもたちの自尊感情、規範意識の現状や、自尊感情、規範意識を醸成するための指導のポイント等をQ & A形式で示しました。

# Q 1

## なぜ、自尊感情、規範意識の醸成が必要なのか。

### A

自尊感情を高めることにより、子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を認識することができます。

規範意識を高めることにより、人が互いに尊重し協働して社会を形づくっていく上で求められるルールやマナーを身に付けることができます。

#### ◆ 自分のよさや可能性を認識できる

「自尊感情」とは、自己に対して肯定的な感情をもつことです。一般的には「自己肯定感」「自己存在感」と、ほぼ同じ意味として用いられます。

各学校においては、子どもたちが「自分は生まれてきてよかった」「自分の命を大切にしたい」など、自分のよさや可能性を認識できるようにすることが求められています。

#### ◆ ルールやマナーを身に付けることができる

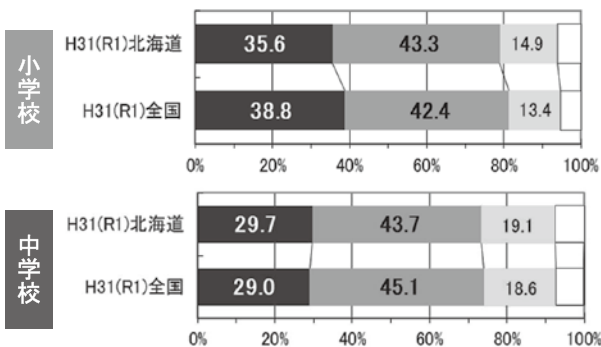
「規範意識」とは、人が互いに尊重し協働して社会を形づくっていく上で求められるルールやマナーを学び、それらを大切にできる感情です。

各学校においては、子どもたちが人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどうのように生きるべきかなどについて考えを深め、自らの生き方を育むようにすることが求められています。

#### ◆ 本道の子どもたちの自尊感情、規範意識の状況

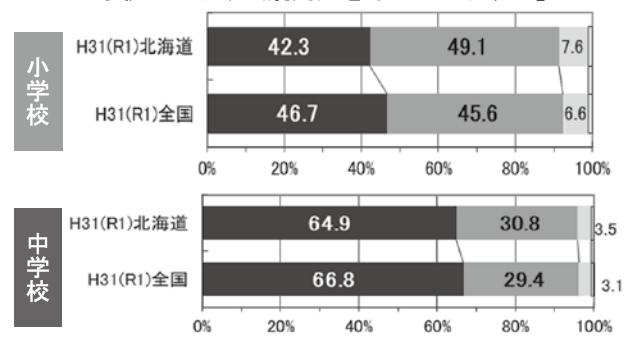
「平成31年度全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査によると、本道の子どもたちの自尊感情と規範意識は、全国と比較してやや低い傾向にあります。

「自分にはよいところがあると思いますか」



■ : 当てはまる   ■ : どちらかといえば、当てはまる   ■ : どちらかといえば、当てはまらない   ■ : 当てはまらない

「学校のきまり（規則）を守っていますか」



#### < 自尊感情の状況 >

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合は、全国と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で0.7ポイント低くなっています。

#### < 規範意識の状況 >

「学校のきまり（規則）を守っていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合は、全国と比べて、小学校で0.9ポイント、中学校で0.5ポイント低くなっています。



#### ワンポイント

子どもたちが、自分のことを肯定的に受け止めることと、自分が行うことに責任をもち、自律的な態度をもつことの両面を、調和のとれた形で身に付けていくことができるようにすることが大切です。



## Q 2

自尊感情を醸成するための指導のポイントは、どのようなことですか。

A

「個性の伸長（向上心、個性の伸長）」を自校の重点内容項目として位置付けるなど、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて、自分のよさを伸ばしたり、短所に目を向けさせたりする指導を計画的・発展的に行うことが大切です。

## ◆ 道徳科における指導のポイント

## 〔小学校における「個性の伸長」の指導〕

個性の伸長に関わる指導を行う際には、長所を伸ばすように促すことはもちろんですが、短所についてもしっかりと受け止め、努力によって望ましい方向へ改め、自分のよさを一層生かし更にそれを伸ばしていけるように配慮することが大切です。

## 【小学校低学年】

子どもの長所を積極的に認め、励まし、子ども自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所のできるだけ多く気づき、実感していけるようにすることが大切です。

## 【小学校中学年】

友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切です。

## 【小学校高学年】

自分が気付いた長所に目を向けて現状を維持し続けることの大切さや、積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要があります。同時に自分の短所などもしっかり見極め、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、それを課題として改善していく努力も重ね、自分自身を伸ばしていくことが大切です。

## 〔中学校における「向上心、個性の伸長」の指導〕

短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ、かけがえのない自己を肯定的に捉え（自己受容）させるとともに、自己の優れている面などの発見に努め（自己理解）させることが大切です。さらに、自己との対話を深めつつ、自分自身のよさを伸ばしていくようにすることが大切です。

## ◆ 各教科等における指導

## 【例①：国語科】

国語科においては、言語活動が道徳教育と深く結び付いています。子どもたちが話し手や書き手の言葉に含まれている思いを知り、相手への理解を深め、自分もさらに聞き手や読み手からの理解が得られるように思いを伝えるなど、相互理解の大切さに気付くよう指導します。

## 【例②：図画工作科】

小学校第1学年「すなのせかい」（造形遊び）において、校庭で、砂や色の付いた木片を基に、

造形的な活動を思いつき、活動を工夫していく学習活動を行います。

同じ場所で同じ砂や木片などを使っているにもかかわらず、子どもによって思いつく活動は違います。子どもは、自分や友だちの活動や、友だちや教師からの共感などによって、自分自身のよさや可能性を感じます。

このような学習活動は、道徳科の内容項目の「個性の伸長」「友情、信頼」と深く関わっています。子どもたちが自分の特徴に気付くことや、友だちと仲よくし、助け合うことなどの道徳教育の視点を意識して指導します。

## ワンポイント

学校の教育活動全体を通じた道徳教育を充実させるためには、子どもや地域の実態など様々な事項を的確に把握して、育てたい子ども像を明確にして目標を設定し、その実現に向けた計画を立て、全教職員が共通理解、共通実践できるようにすることが大切です。



## Q 3

規範意識を醸成するための指導のポイントは、どのようなことですか。

A

「規則の尊重（遵法精神、公德心）」を自校の重点内容項目として位置付けるなど、道徳科や特別活動を要として、学校の教育活動全体を通じて、法やきまりの意義を理解したり、権利の尊重とともに義務を果たそうとする態度を育んだりする指導を計画的・発展的に行うことが大切です。

### ◆ 道徳科における指導のポイント

#### 〔小学校における「規則の尊重」の指導〕

法やきまりが、よりよい人間関係をつくるためにも重要であり、集団や社会のために自分がすべきことや自他の権利を尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養うことが大切です。

#### 【小学校低学年】

身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切です。

#### 【小学校中学年】

一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切です。

#### 【小学校高学年】

社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法（法律）などを守り従うという遵法の精神をもつところまで高めることが大切です。

#### 〔中学校における「遵法精神、公德心」の指導〕

法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められます。

さらに、遵法精神には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせるよう指導することが大切です。

### ◆ 各教科等における指導

#### 【例①：体育科】

小学校第4学年「タグラグビー」の学習では、やさしいゲームを繰り返し行い、タグラグビーの楽しさや喜びに触れるとともに、個や集団の課題解決のための練習を工夫して取り組みます。

ゲーム中に、規則を遵守しようとする指導内容を位置付け、道徳教育との関連を図ることにより、運動を一層楽しむとともに、集団の向上のために、約束やきまりを守ることができるようにすることが大切です。

#### 【例②：特別活動】

特別活動では、集団活動を通して「自分たちできまりや約束をつくって守ろうとする態度」を身に付けさせることが大切です。

特別活動では、道徳科で学んだ道徳的価値に関わる自己の考えを、よりよい学校生活と人間関係を築こうとする実践的な活動やキャリア形成に関わる自己実現に向けた活動の中で、実際に言動にして表現することにより、集団の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めることができるようにすることが大切です。



#### ワンポイント

特別活動における学級や学校生活での集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場です。特別活動と道徳教育との関連を明確に意識しながら適切な指導を行うことが大切です。



## Q 4

自尊感情、規範意識の醸成に向け、道德教育をどのように進めるとよいですか。

A

自尊感情や規範意識に関わる日常の道德教育を通じて、子どもの成長を見取るとともに、道德科の授業において、日常の道德教育を補ったり、深めたり、相互に関連させたりする指導を行うことが大切です。

## ◆ 道德教育と道德科の関係

道德教育は、各教科等での指導や日常生活の中での指導等、学校の教育活動全体を通じて行うものです。

道德科の授業との関係については、小（中）学校学習指導要領第1章総則第1の2（2）に、次のように示されています。

学校における道德教育は、特別の教科である道德（以下「道德科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德科はもとより、各教科、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（生徒）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道德科は道德教育の要として機能することが重要であり、道德科の指導において、各教科等で行われる道德教育を補ったり（補充）、それを深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させ、統合させたりする（統合）ことで、学校における道德教育は一層充実します。

## ◆ 日常の道德教育と道德科の関連付け

〔例：規範意識の醸成〕

## ① 日常の道德教育

規範意識の醸成に向けて、例えば、運動会に向けた指導で、「競技ではルールを守って競い合う」など、「規則の尊重」を意識した指導を行うことにより、指導による子どもたちのよさや成長、課題を明らかにします。

## ② 道德科の授業

規範意識にかかわる子どもたちのよさや成長、課題を踏まえた上で、特に考えを深めさせたい道徳的価値を学習指導要領に示されている規範意識の内容を基に明確にします。

## ③ 教材活用の工夫

規範意識について、道德科の授業で特に考えを深めさせたい道徳的価値を踏まえ、発問の意図や、指導方法の工夫など、教材活用の工夫点を明らかにします。

## 【例：運動会の指導場面】

競技では、ルールを守って競い合いましょうね！（規則の尊重）

最後まで諦めずに、力を出し切りましょうね！（希望と勇気、努力と強い意志）

友だちと協力し、助け合って、演技を成功させましょう！（友情、信頼）



日常的に自校の重点内容項目を意識した指導を行い、指導した結果、子どもたちにどのような成長やよさ、課題が見られるのかを明らかにします。



## ワンポイント

道徳性を効果的に養えるよう、子どもの日常的な体験はもとより、集団宿泊活動やボランティア活動など、多様な体験活動を生かした授業を工夫し、道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えられるようにすることが大切です。



## Q 5

### 自尊感情、規範意識の醸成に向けて道德教育の全体計画は、どのように作成・活用したらよいですか。

A

全体計画は、各学校において、校長の明確な方針の下に、道德教育推進教師が中心となり、全教職員の参加と協力により作成するとともに、全体計画の別葉を、年間を通して活用し、自尊感情、規範意識について意図的・計画的な指導を行うことが大切です。

#### ◆ 全教師の参加と協力による全体計画の作成

全体計画は、道德教育の目標を達成するために、

- ・どのようなことを重点にするのか
- ・各教育活動はどのような役割を担うのか
- ・家庭や地域とどのように連携していくのか

などについて総合的に示したものです。

例えば、自尊感情の醸成に向けた全体計画を作成する場合、次のような内容が考えられます。

#### 【全体計画の内容例】

- ① 自校の重点「個性の伸長」に関わる目標
- ② 「個性の伸長」に関わる学年の重点目標
- ③ 「個性の伸長」に関わる指導の方針
  - ・ 日常の道德教育と道德科の授業との関連
  - ・ 校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導
- ④ 各教科等における「個性の伸長」の指導の内容及び時期
- ⑤ 自校の特色ある教育活動における「個性の伸長」の指導の内容及び時期
- ⑥ 学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における「個性の伸長」の指導の方針
- ⑦ 「個性の伸長」に関わる家庭、地域、他の学校との連携の方法



#### ワンポイント

作成した全体計画は、家庭や地域の人々の積極的な理解と協力を得るとともに、様々な意見を聞き一層の改善に役立てるために、その趣旨や概要等を学級通信に掲載したり、ホームページで紹介したりするなど、積極的に公開していくことが大切です。



#### ◆ 別葉の活用による意図的・計画的な指導

自尊感情、規範意識の醸成に向けて、年間を通じて意図的・計画的な指導を行うためには、

- ・各教科等における自尊感情、規範意識に関わる指導
- ・自尊感情、規範意識に関わる体験活動や実践活動
- ・自尊感情、規範意識の醸成に向けた家庭や地域社会等との連携のための活動

などの内容や時期について、全体計画の別葉として一覧表に整理する工夫が考えられます。

例えば、規範意識の醸成に向けた別葉を作成・活用する場合、次のような方法が考えられます。

#### 【別葉の作成手順例】

- ① 自校の重点「規則の尊重」に関わる各教科等の指導内容を一覧表に整理
- ② 日常の授業を行いながら、「規則の尊重」に関わる指導の実績を一覧表にメモ
- ③ 蓄積したメモを活用して一覧表を見直し

#### 【意図的・計画的な指導を促進する別葉の活用例】

別葉を職員室に拡大して掲示し、

- ・「規則の尊重」に関する指導を自己点検する
- ・他学年の進捗状況を把握して自らの参考にする
- ・新たな指導場面や改善点を朱書きするなど、全教職員で指導した事項を確認することが効果的です。

## Q 6

道徳科で内面的資質を養うための指導のポイントは、どのようなことですか。

A

教師が指導の明確な意図をもち、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習指導過程を構築することが大切です。

## ◆ 教師の指導の明確な意図

## ①道徳的価値

教師が、ねらいとする道徳的価値について、どのような指導が必要だと考えているかを明らかにします。

## ②子どもの実態

ねらいとする道徳的価値について、日常の道

徳教育でどのように指導し、その結果、子どもたちにどのようなよさや課題が見られるかを明らかにし、本時で特に考えを深めさせたいことを明確にします。

## ③教材の活用

授業者の意図、子どもの実態を基に、発問の仕方など教材の活用の仕方を明らかにします。

## ◆ 道徳科の目標に示された学習指導過程

※（ ）内は中学校

## ①道徳的諸価値について理解する

価値理解、人間理解、他者理解といった道徳的諸価値について理解するための発問を意図的・計画的に位置付けます。

## ②自己を見つめる

読み物教材の登場人物に共感し、「自分がこの人と同じ場面状況に置かれたらどう考えるだろうか」などと、道徳的価値について自分との関わりで考え、自己理解を深められるようにします。

## ③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

子どもたちが多様な価値観の存在を前提として、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考え、自分の考えを深め、判断し、表現できるようにします。

## ④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

性急に態度の変化を押し付けることなく、一人一人が、自分の生き方について考えを深められるようにします。

## 【学習指導案例】

1	主題 長所を伸ばすよさ（A 個性の伸長）
2	教材 「うれしく思えた口から」文部科学省読み物資料
3	本時のねらい 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
4	展開
	学習活動
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。「自分のよい所、悪いところは意識したことがありますか。」</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材を読み、よい所に気付かないときの気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。「『ぼく』が『いいところなんて一つもない』と思っていた時どのような気持ちだったでしょうか。」</li> <li>○長所を伸ばすよさについて多面的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。「『ぼく』が『自分も大事な一人』と思えるようになったのは、どうしてだと思いますか。」</li> <li>・得意なもの、好きなことが見つかって頑張ろうと思えるようになった。</li> <li>・できないことができるようになったことで自信がついた。</li> <li>・一緒に頑張る野球仲間ができたことで気持ちが変わることができた。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生活を振り返り、自己理解を深める。「得意なもの好きなことをもっと伸ばして、うれしかったことやよかったと思えたのは、どのような時ですか。」</li> <li>○教師の説話を聞き、自分のよさを一層伸ばしていこうとする意欲を育む。</li> </ul>

<令和元年度道徳教育推進教師研修の資料より>



## ワンポイント

内面的資質を養うには、子どもが道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方そのものを指導したりするのではなく、道徳的価値をどのように捉え、どのような葛藤があるのかなど、道徳的価値を自分との関わりで捉えられるよう指導することが大切です。



## Q 7

### 自尊感情や規範意識に関わる道徳性の成長の様子を、どのように見取ればよいですか。

#### A

個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりで、子どもがいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を行うことが大切です。

#### ◆ 評価の基本的な考え方

子どもたちの自尊感情や規範意識を意図的・計画的に醸成するために、道徳科の「個性の伸長（向上心、個性の伸長）」や「規範意識（遵法精神、公德心）」に関わる授業における子どもたちの学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすことが大切です。

#### 【道徳科の評価のポイント】

- ・大きくくりなまとまりを踏まえた評価
- ・他の子どもと比較して優劣を決めない評価
- ・個人がいかにか成長したかを受け止め、励ます評価
- ・数値ではなく記述式による評価

#### ◆ 大きくくりなまとまりによる個人内評価

年間や学期などの大きくくりなまとまりの中で、「個性の伸長」や「規範意識」について、個人がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ますことが大切です。

#### 【道徳科の評価において重視すること】

##### ①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

例えば、

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていること
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていること

などを発言や感想文、質問紙の記述等から見取ります。

##### ②道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めているか

例えば、

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしたり、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直したりしている
  - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているかや、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている
- などの子どもの姿に着目します。

#### 【評価の一例】

道徳の授業では、これまでの自分の体験を振り返り、今後に生かそうとしています。「雨のバス停留所で」の授業では、迷惑を受けた経験から、みんなが気持ちよく生活するために自分もマナーを守っていこうと考えていました。

前段は、年間や学期といった大きくくりなまとまりの中で見取った評価、後段は、一つの授業の具体的な姿を見取った評価で、それらを組み合わせて評価を行っています。



#### ワンポイント

発言が少ない子どもや考えたことを文章に記述することが苦手な子どもが、教師や友だちの発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿を捉えて評価するなど、発言や記述ではない形で表出する子どもの姿にも着目することが大切です。

